



熊本中央病院 広報誌

# くまちゅうNAVI

Vol.20

【特集】

## 診療部長対談 阿部靖之×那須二郎

国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院 広報委員会編集発行 令和元年10月

### 乳がん早期発見 任意型乳がん検診のご案内

乳腺・内分泌外科部長

むらかみ けいいち  
村上 敬一

乳がんと診断された人の1割ほどは、親から子へ乳がんの原因が受け継がれる「遺伝性乳がん」であることが報告されています。そのうちの多くが、アメリカの有名女優がメディアで大きく取り上げられ日本でも話題となった「遺伝性乳がん卵巣がん症候群HBOC」と考えられます。また、日本では乳がん検診対象者の3～4割が「高濃度乳腺」とされており、同じく乳がんの発症リスクが高いと知られています。こうした発症リスクが高い人には通常のマンモグラフィーによる検診では十分に死亡率を低下させることができないため、乳房造影MRIを含むようなスクリーニングが推奨されます。

当院では、発症リスクの高い方やマンモグラフィー検査による検診が難しい方を対象とした「任意型乳がん検診」を開始しました。

#### ◆任意型乳がん検診対象◆

- 遺伝性乳がんの発症リスクが高い
- 高濃度乳腺
- 40歳未満の若年女性
- 乳房に皮膚に露出する病変やケガがある
- 妊娠中、授乳中
- 心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器ICDを使用
- 乳房インプラント、生理食塩水バッグ、シリコン注入など
- 放射線過敏症など
- 男性

※詳しくは当院ホームページをご覧ください



#### 任意型乳がん検診のお申込み

平日(月曜～金曜) 10時～16時  
TEL096-370-3111(代) 内線2104



**阿部 靖之** Yasuyuki Abe  
 [専門]  
 整形外科  
 関節外科(人工関節) 骨折  
 日本整形外科学会専門医  
 日本骨折治療学会評議員

**那須 二郎** Jiro Nasu  
 [専門]  
 外科一般、消化器外科  
 日本消化器外科学会指導医・専門医  
 日本消化器内視鏡学会指導医・専門医  
 日本消化器病学会指導医・専門医  
 日本がん治療認定医機構認定医  
 日本大腸肛門病学会指導医・専門医

職員がより働きやすい環境へ

患者さんに満足してもらおう医療を

阿部 靖之 × 那須 二郎  
 キーワードは「人」

診療部長対談

今年4月に診療部長へ就任となった二人

就任後の変化についてと熊本中央病院の

未来に向け熱い想いを語っていただきました

確かおふたりは同級生とか。元々お知り合いでした？

プにはぜひ行ってみたいね。次はドバイだけ……。

那須 知り合いだよね。高校も大学も同じグラウンドで、ラグビー(那須)とサッカー(阿部)やった。医者になって一緒に仕事したのはここが初めてだけ。

阿部 うんうん、前から那須が頑張ってるって話は聞いてたよ。

今はまっているんでは？

那須 なんてったってラグビーのワールドカップでしょう。この前東京で会議があって、終了後に熊谷まで行ったよ。対南アフリカ戦だったけどこれは面白かった！初めてあなたに君が代を歌ったね(笑) 自分はやっぱ日本人だなあ、と思った。ビールは美味しい。この後の熊本や大分も観戦チケット取ったし、とても楽しみ。

阿部 いいね。サッカーワールドカップ

那須 決裁の多さには確かに驚いた。いつでも押せるよう、あちこちにハコを入れてるよ(笑) 診療部長になって……うん、だいぶ変わったね。当然手術につく回数が減ったし。これから徐々に臨床を減らして病院全体のことをやっていかないと思ってる。

半年先まで埋まってる状態だしね。

阿部 例えば、医者は医療秘書が助けてくれるようになって前より環境は良くなっていると思うけど、看護師の負担はまだ大きい。看護師じゃなくていい仕事は、他の職種がサポートする。そうすれば、もつと患者と向き合う時間が長くなって患者さんの不満も減ると思う。リスクを回避する意味でもメリットがあると思うし。

診療部長としての責任についてはどうでしょう？

那須 責任重大だよ。本が大変だし。ただある意味やりがいもあると思う。

阿部 整形外科としては手術がうちの特徴なので、外来治療で良い患者さんは逆紹介で地域の先生方へ願います。今まで通りの連携を持続していくつもり。病院全体としてはうちの得意分野をはっきりと出しているっていいのかなと思う。

これからの地域医療について

阿部 まだこれからだけど、いかに職員が働きやすい職場にするか、そこを考るのが管理者としての責任だと思ふ。職員が幸せじゃないといけないよね。

那須 自分は他の急性期病院の真似しても仕方ないと思う。今の政府医療の方針と違うけど、あと1日で管が抜けるなら抜けてから帰ってもらえばいいし。それで患者さんが満足してくれるなら無理する必要はないと思うよ。患者さんを選んでもらうためには、病院の仕組みや体制とかもあるんだと思うけど、一番大事なのはやっぱり「人」だと思ふ。そういう意味でもいい人材を確保しないといけない。

今後どう取り組みます？

那須 各科、各職種で目標は必要だけど、病院全体で皆が頑張れるような体制作りが必要かと思う。あと、これぐらいいいやと思つたらこれぐらいの病院にしかない。常にそこそこでベストを目指すのが大切だと思ふ。

阿部 僕は、現状維持よりちょい上ぐらいの頑張りが必要かと思う。そのためには、皆でサポートし合おう、助け合おう、というふうにしたい。

那須 うんうん。

**消化器内科** 進化する内視鏡治療 — 低侵襲で安全・確実な内視鏡を —



消化器内科医長  
**庄野 孝**  
TAKASHI SHONO

専門分野

消化器一般、消化器がんの内視鏡診断・治療

指導医・専門医・認定医

日本消化器内視鏡学会指導医・専門医  
日本消化器病学会指導医・専門医  
日本内科学会総合内科専門医・指導医・認定医  
日本がん治療認定医機構認定医

本年4月より、熊本中央病院消化器内科医長として赴任しました。庄野 孝と申します。研修医を終え、済生会熊本病院に4年、熊本大学病院に11年（うち埼玉医科大学国際医療センターへ国内留学2年）、一貫して消化管疾患の診断・治療を行って参りました。私が消化器内視鏡医を志してから、消化器内視鏡の分野は劇的に変化いたしました。診断においては、画像強調技術である狭帯域光(NBI)や拡大内視鏡が開発され、これまで発見されることがなかった微小な癌が早期に見つかるようになり、治療においては、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の発展により、技術的に外科的切除を余儀なくされていた比較的大きな表在型腫瘍も内視鏡的に一括切除が可能となりました。その時代の趨勢の中で、内視鏡技術を習得できたのは私自身幸運であったと感じています。食道癌、胃癌、大腸癌といった消化管癌は早期に発見できれば、ほとんどの症例で内視鏡治療可能です。しかも、嚥下、消化、排便といった機能を損なうこともありません。熊本は以前より内視鏡医のレベルが非常に高く、私たちが驚くような微小な腫瘍を発見し、ご紹介いただく開業医の先生も少なくありません。そのような先生方の信頼を得られるよう、これからも、低侵襲で、安全・確実な内視鏡治療を心がけて参りますので、患者様のご紹介をどうぞ宜しくお願いいたします。

令和元年の年、しかもラグビー W杯日本大会の年（開幕戦観戦してきました！）に熊本中央病院へ赴任させていただいたことは、私にとって心機一転、気持ちを新たに仕事に邁進できる機会をいただけたと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



(4)

**形成外科** 熊本の地で地域医療に貢献したい



形成外科部長代行  
**塚本 歩**  
AYUMI TSUKAMOTO

専門分野

形成外科一般

指導医・専門医・認定医

日本形成外科学会専門医  
日本創傷外科学会専門医

はじめまして。本年4月1日に当院形成外科に赴任しました。塚本 歩と申します。当科は常勤医不在の時期もありましたが、今年度から常勤1名、非常勤1名の体制で幅広く形成外科の診療を行っていく所存です。

形成外科で取り扱っている疾患は頭から手足まで、体表の先天異常（口唇口蓋裂、先天性眼瞼下垂、睫毛内反、耳介の変形、臍ヘルニア、手足の先天異常）、腫瘍（皮膚腫瘍、軟部腫瘍）、腫瘍切除後の再建、急性・慢性創傷（外傷、潰瘍、褥瘡）、変性疾患（眼瞼下垂症、癒痕拘縮、陥入爪）などです。

以前から各地で研鑽し、地元熊本の医療に役立てればと考えていたところ、今回、福岡大学病院形成外科の大慈弥裕之教授と当院の濱田院長にご縁があり赴任させていただくこととなりました。私はこれまでこども医療センターや地方の拠点病院で勤務し、小児形成外科、皮膚軟部腫瘍、下肢創傷、眼瞼下垂などの加齢性疾患を主に扱ってきました。近年は高齢化と生活習慣病の増加に伴い、慢性創傷や変性疾患を診る機会が増えております。そのため、当院では下肢血管病・創傷ケアセンターで下肢病変に対して集学的治療を行っています。特に慢性創傷に関してはフットケア外来を開設しておりますので何かお困りの症例がありましたらご紹介ください。未永く地域医療に貢献できるように頑張っていきますので今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



(5)

形成外科外来

月・火・木 受付8:00~11:00  
※水曜フットケア外来 受付9:00~11:00  
伊方敏勝医師(熊本大学病院)

放射線診断科

内科カンファレンスだより スペクトラルCTが臨床に与えるインパクト 内科診療に役立つ症例毎の有用性一挙公開

はじめに

通常のCTは一回の撮影で一断面あたりに一枚の画像取得が可能です。スペクトラルCTは通常の画像以外にも様々な臨床に役立つ画像を取得することを可能にしました。詳細な原理は割愛しますが、通常のCTでは照射されたX線のエネルギーを分離できないのに対し、スペクトラルCTは分光可能という点が大きな特徴です。これにより異なるX線のエネルギー毎の異なるCT値の変化によりその物質の弁別が可能となったのです。分かり易く臨床症例を通して概説します。まず、スペクトラルCTの有用性は主に物質弁別と造影剤の効果を高める、この二つの利点に分けることができます。

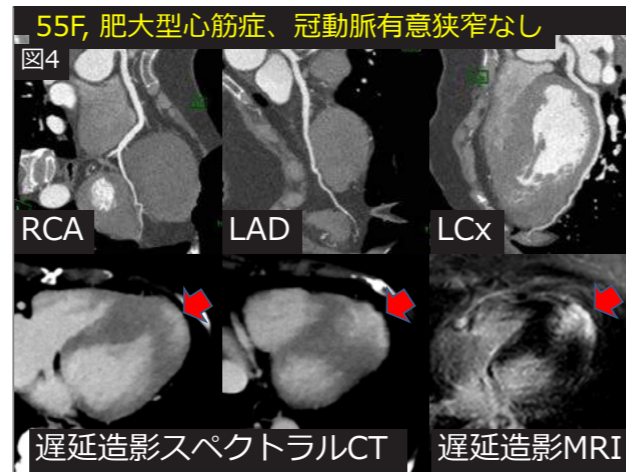
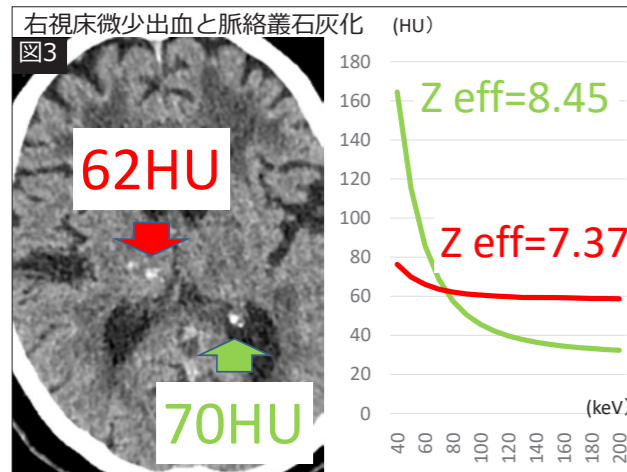
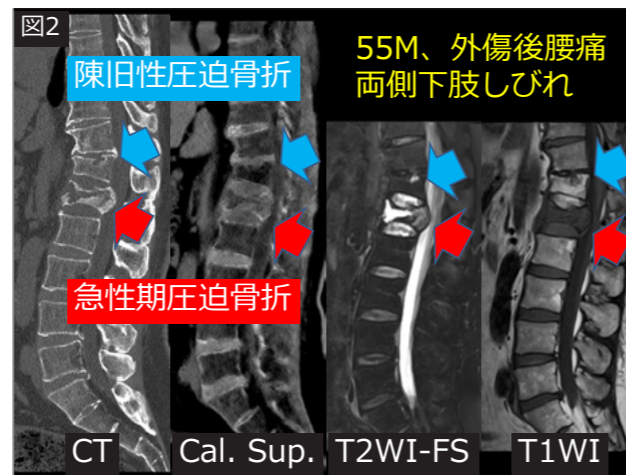
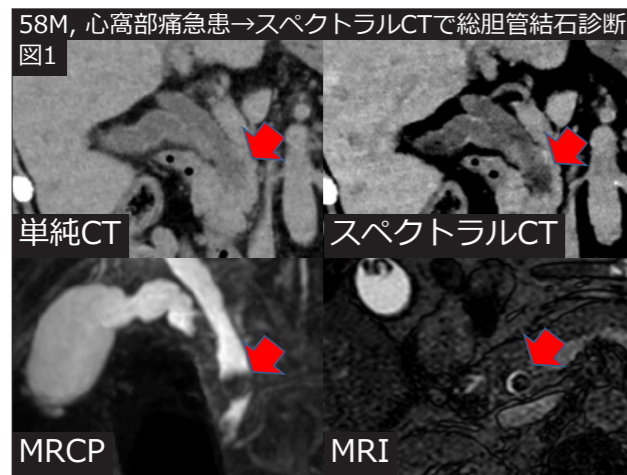
物質弁別の臨床的利点

そもそも物質の弁別はMRIが得意とするところですが、MRIはT1強調画像、T2強調画像、拡散強調画像、その他にも山のような撮影法があり、各々の信号強度を組み合わせることで画像化された物質の性状を同定していきます。これに対しCTでは一回の撮影で取得できる画像は1枚ですので、物質の弁別

放射線診断科部長 片平 和博

がより難しくなります。しかしそこにスペクトラル解析を駆使することにより、まさに“MRIみたいなCT”ができあがったのです。ここで臨床に役立つ代表例を提示したいと思います。

- ① 胆道系結石における従来のX線陰性結石を同定する(図1)
  - ② 骨折の新旧を知る(背部痛や腰痛の原因として重要な情報)(図2)
  - ③ 頭部外傷の際の微小高濃度陰影における石灰化と出血の鑑別(図3)
  - ④ 結腸癌の所属リンパ節腫脹に対し、良悪性の鑑別
  - ⑤ 偶然発見された副腎腫瘍における腺腫か否かの鑑別
  - ⑥ 心筋症における遅延造影CTを用いた心筋線維化の有無の評価(図4)
  - ⑦ 肺動脈血栓塞栓症における肺血流マッピング画像(図5)
- 他にも多数ありますが、本来CTで診断が困難だった患者さんに対しMRIで再検を必要とする場面が減ったことは、臨床的なインパクトが高いと考えています。



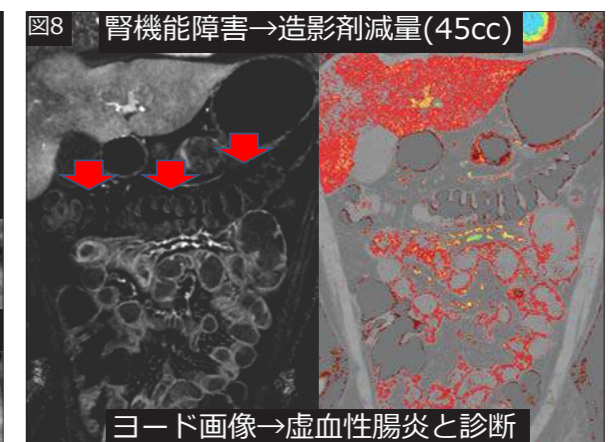
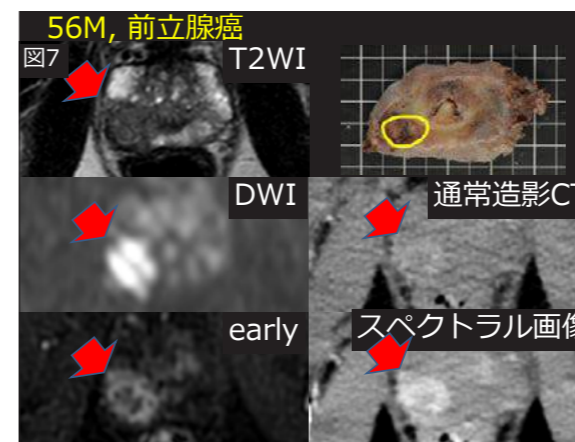
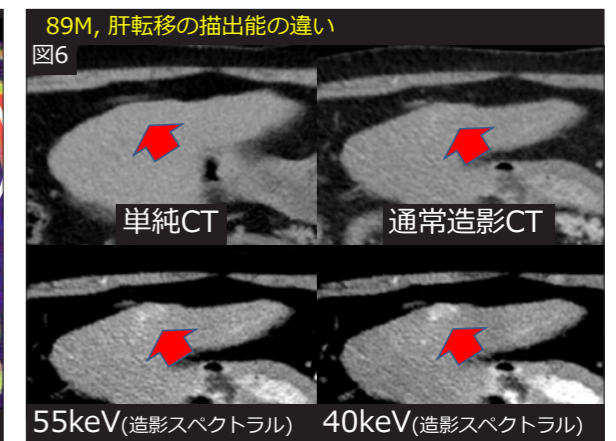
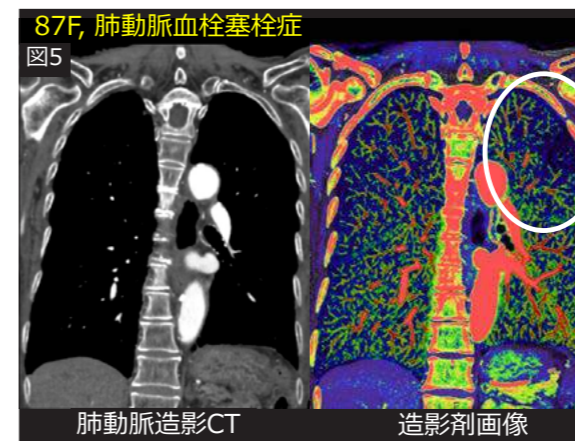
造影剤の効果が高まる

スペクトラルCTにて低エネルギーレベルの仮想単色X線画像という画像を作成すると、一般的なCTの3倍の造影コントラストを得ることが可能となります。よって今まで検出困難であった病変を同定できるようになった点や診断自体にも大きな情報を得ることが可能となってきた点は特筆すべき利点と考えられています。例えば今までに検出がしばしば難しかった微小肝転移病変(図6)や乳癌や前立腺癌(図7)など見落としやすい疾患の検出能が上がってきました。その他にも通常の造影CTではコントラストが低い病変も明瞭化できる場面にもしばしば遭遇します。また最大3倍の造影効果があるということは、腎機能障害がある患者さんには1/3の造影剤量で今までと同様の造影コントラストを得る事が可能

ということで、臨床的にもインパクトが高いといえます。造影を行えば容易に診断可能な急患の場合など、例えば上腸間膜動脈血栓塞栓症、肺動脈血栓塞栓症、虚血性腸疾患(絞扼性イレウスや虚血性腸炎(図8))など命に関わる病態も腎機能障害があっても比較的安心して造影CTを行えるようになりました。腎臓にも急患にも“優しいCT”ということができると思っています。

最後に

スペクトラルCTの有用性は幅広いですので、院内・院外を問わず多くの患者さんにこのCTのメリットを受けていただくと幸いです。多くの依頼をよろしくお願いいたします。



くまちゅう内科カンファレンスのご案内

当院では内科の合同勉強会として、定期的に「くまちゅう内科カンファレンス」を行っています。日頃の診療に密着した内容をと考えておりますので、先生方のご参加をお待ちしております。

- 開催日程 毎月第2水曜(8月、12月を除く)19時30分～
- 場所 熊本中央病院 管理棟2階 大講堂
- 診療科 呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、糖尿病内分泌科、放射線科など

# くまちゅう TOPICS

## 第4回市民公開講座のご案内



◎11/24(日)14時～16時(受付開始13:30)  
 ◎場所 熊本中央病院2階 大講堂  
 「乳がん」をテーマに市民公開講座を開催します。  
 事前申し込みや参加費は無料です。お誘いあわせの上、  
 是非ご参加ください。



参加費無料  
駐車場無料

**第4回 市民公開講座**

本当に聞きたい **乳がんの話**

乳がんは、乳管や乳腺組織の細胞が異常に増殖し、正常な細胞に侵襲し、周囲の組織に浸潤し、リンパ管や血管を介して他の臓器に転移する可能性があります。乳がんは、早期発見・早期治療により、多くの場合、完治が可能です。しかし、進行した乳がんは、治療が難しく、予後が悪くなります。乳がんの予防や早期発見のために、定期的な検診を受けることが大切です。

**11/24(日)** 時間 ▶ 14:00～16:00 (13:30受付開始)  
 会場 ▶ 熊本中央病院 2階大講堂



乳腺・内分泌外科部長  
村上 敬一

**講演① 乳がんリスクが高い人の乳がん検診**  
 ～遺伝性乳がん、高濃度乳腺とは～  
 講師：乳腺・内分泌外科 村上 敬一

**講演② 心と体の緩和ケア**  
 ～自分でできるリンパマッサージ～  
 講師：緩和ケア認定看護師 錦戸 陽子

**講演③ 若年性乳がんについて**  
 ～実際に体験した立場から～  
 講師：田中 めぐろ

事前申し込みは不要です  
ぜひお気軽にご参加ください

国家公務員共済組合連合会  
**熊本中央病院** 熊本市南区田井島1丁目5-1 TEL 096-370-3111(代)

## 編集後記 ～ ONE TEAM ～

皆様はラグビーワールドカップ2019日本大会をお楽しみでしょうか？桜のエンブレムを胸に付けて戦う日本代表の活躍もあり、その熱狂を多くのメディアが連日取り上げています。熊本でもプール戦2試合開催されましたが、熊本での開催招致が成功した直後に熊本地震に直面し、その震災復興とともに無事開催できたことについては感慨深いものがあります。

ラグビー日本代表は、95年南アフリカ大会でニュージーランドに17-145と大敗を喫した苦難の歴史があります。その後、世界のフィジカルを知るエディー・ジョーンズヘッドコーチ (HC)、世界の戦術・戦略を知るジェイミー・ジョセフHCを招聘し、その最新の知

見をもとに長期的な強化策が実り、ラグビー日本代表の前回、今大会の活躍に至ったと感じます。また、日本代表のチームスローガンはチームの結束力を示す「ONE TEAM」です。チーム医療、多職種連携が欠かせない現在の医療において、この「ONE TEAM」の精神が今最も必要とされているかもしれません。

今回のくまちゅうNAVIには、当院のニューリーダーである那須二郎先生と阿部靖之先生を対談形式でご紹介しました。ラグビーワールドカップの熱狂のように、お二人の熊本中央病院の未来に向けた熱い想いが皆様に届きましたでしょうか？

(広報委員長 前川謙悟)